

### 建築 × 都市 × 地域デザイン事務所 TIT & Associates 始動によせて

The Interview on Architecture / Urban Design / Teritorial Design Unit, TIT & Associates

text\_KUROMOTO/M2

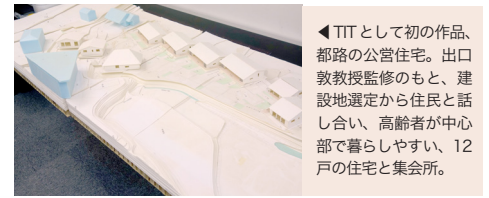
2016年4月、都市デザイン研究室OBを含む3名が共同で、建築・都市・地域デザイン事務所「TIT & Associates」を設立しました。独立とはどのような道なのか。その醍醐味、苦勞とは。今月号では事務所へのインタビューを通じ、「都市デザインを実践する」生き方を探ります。



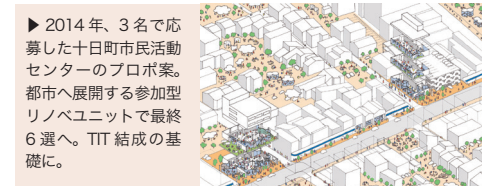
**田中大朗氏 HIROO TANAKA**  
2000 大阪市立大学建築学科卒業  
2002 都市デザイン研究室修士課程修了  
2002-08 シーラカンス K&H 勤務  
2008 田中大朗建築都市設計事務所設立  
2009-14 東京大学特任研究員  
2008- UDCT (田村地域デザインセンター) 副センター長  
2008- UDCKo (郡山アーバンデザインセンター) 副理事長

**池田晃一氏 KOICHI IKEDA**  
2000 東京大学都市工学科卒業  
2002 都市デザイン研究室修士課程修了  
2002-09 アプル総合計画事務所勤務  
2009-14 目黒区住宅・街づくりセンター勤務  
2014- 東京大学特任研究員  
2014- UDCT ディレクター

**富沢真二郎氏 SHINJIRO TOMIZAWA**  
2001 東京大学都市工学科卒業  
2001-07 山本理頭設計工場勤務  
2010- 富沢真二郎設計事務所設立



◀TITとして初の作品、都路の公営住宅。出口教授監修のもと、建設地選定から住民と話し合い、高齢者が中心部で暮らしやすい、12戸の住宅と集会所。



▶2014年、3名で応募した十日町市民活動センターのプロボ案。都市へ展開する参加型リノベユニットで最終6選へ。TIT 結成の基礎に。

#### >まず、卒業してからの経歴を教えてください。

**富沢**：学部で卒業して、アトリエ事務所に入りました。ユニット構造を住民皆で組み立てる計画の町役場や、美術館の担当をしました。30歳で辞めて、住宅や幼稚園など、民間の仕事のやり方を覚えました。

**田中**：アトリエ事務所、本社建替えのマスタープラン、住宅、小中学校等の設計をしました。その後辞めて事務所を作ったと同時に、北沢先生から田村のPJに呼ばれて。すぐに福島に移住して、自分の事務所もUDCTもやりつつ、4年間田村に張り付いて仕事しました。

**池田**：ハードな部分でまちづくりに関わりたくて、都市・建築の設計事務所まで8年間働きました。まちづくりの計画や広場や公園の設計とか。その後もっと地元に着きたくて、街づくりセンターで、商店街や町会との話し合い、イベントなどを一緒にやりました。

#### >現在、TIT ではどんな業務がありますか？

**田中**：現在は、3人それぞれの仕事を持ちよって、共同で作業している段階ですが、都路は3人で取り組んだ仕事です。福島第一原発に近い田村市都路町の古道集落で、避難者が戻ってこられる都路のあり方を議論して住生活基本構想としてまとめました。これに沿って、公営住宅の設計を3人で一緒に、今年6月に竣工しました。

**黒本**：3人の事務所になって、以前との変化は？  
**富沢**：やりやすい。微妙なことで悩んで行き詰まる時に聞けるから、スムーズに答えにたどり着ける。

**田中**：後からだと手戻りになるところが早めに分かって、リスクを減らせる。忙しい時は集まってくれて、その分回せる仕事量が増えますね。

#### >学生時代のどんな経験が今に生きていますか。

**池田**：PJで、地元の人とか研究室メンバーと話して考えるのが大切な。

**田中**：現場で自分の目で見て、地元と会話するのをデザ研が一番大事にしますけど、それを一歩引いてトータルで考えるのも、一方で非常に大事だと思っんですよ。

**黒本**：北沢先生特集でもそれを聞きました。PJは何を？

**池田**：鞆の浦と大野村と神楽坂と・・・ (一同騒然)

**田中**：当時は、研究室同期の5人全員が全部のPJをやりました。コンペも毎月のように。時間があつたからね。

**池田**：研究室には毎日行って顔を合わせていたので、な

んかコンペやるか！とか。

**黒本**：PJの体験で修論の方向に影響はありましたか？  
**田中**：PJの中で問題意識が出来てきて、深みが出て、実際に役立つ研究に発展していくんじゃないかな。

**田中**：PJをちょっと引いて見て、どういうことか自分で考える研究的な視点が大事だと思います。僕も当時は考える余裕がなくて、必死だったので、反省ですが(笑)。

#### >その学生の頃すでに、独立を意識してたんですか？

**富沢**：私はそうですね。なんか楽しそう、自由そうじゃないですか。(一同笑)会社に勤めるって実感がなかった。

**田中**：私も独立。修士出てアトリエか組織系か悩んでいて、で北沢先生に相談したら、アトリエ行きなさいと言われた。その場で先生から電話して、まず会ってこい、と。

**池田**：僕も独立は考えてたかな。研究室でやっていたような、地道なまちづくりをしているのは、小さな事務所とかコンサルだと思った。

#### >独立してからの、やりがいや苦勞は何でしょう？

**富沢**：やりがいと苦勞は7：3くらい。やりがいはやっぱり、PJ全体を見通せる。じゃないと面白くないじゃないですか。その分責任を負って、失敗は全部自分で返ってくるのが苦勞だね。自分の成果を自分の名前で出せるのが面白いし、次にもっと上の仕事が降ってきて、できることが増えていく。それをやりがいにしています。

**池田**：学生のときに研究室で純粋に考えていたところを、今も続けられるのは良いのかなと。

**田中**：自分で決めて責任とることが、いちばん楽しいから、やりがいありますよね。それにつきますね。苦勞はそんなないと思います。楽しいですよ。ほんとに。

#### >建築をやる上で、都市を勉強していた強みは？

**富沢**：建築も都市の文脈を考えるけど、見方が別かな。

**田中**：初めの発想から、敷地にとどまらない大きな所から考えるべき問題もあるかなと思います。

**富沢**：アトリエ系は全然違う世界で、逆に得たものも大きい。建築のスタディでは、選択肢を100出して一番を選択して考え方。都市工は大きな話はどうもいけども、実際どう作るまで細かく考えられた方が良いかな。

**池田**：都市は、建築のような条件がそもそもなくて、事業をおこすところを考えますよね。

**富沢**：あと建築は、レベルが高い人が使うイメージで考

えちゃう。ここで対話が起こって楽しい空間になる、と。でも都市は、色んな人向けに優しいものを作る。

**池田**：逆に都市は、そこを見すぎてジャンプしづらい。これ良い！と思っても、でも目の前で話をしている高齢者の方はそんな使い方はしないだろうな、と。

**田中**：まあ都市デザインも一方で、新しいことをして次の時代に進んでいく方向性もあると思いますね。

#### >都市デザインに、建築の知識は必要だと思いますか？

**富沢**：なるべく設計を、具体的に考えてやり切った方がいい。都市は、ここは大体こんな感じで、こ終わるじゃないですか。経験上、そこを文書や図面で、どう何ミリなのかをリアルに数値化する訓練をした方がいい。

**田中**：建築でなくても、何か得意分野を持つといいと思います。建築だと構造、意匠とか、建築以外でも経済や政治とか色々あって、何か持っていると生かせる。都市デザインに携わるのであれば、軸があるほうが良い。

**黒本**：都市工の池田さんの場合、得意分野は何ですか？

**池田**：なんですかね。事業や人をどう動かすか、仕組みをどう作っていくかをまず考えます。

#### >今後この事務所ですべてやりたい仕事は？

**富沢**：そうですね。何したいかな、3人で。課題を真正面から受け止めて解くことかな。壊して建てるんじゃないで、まちの資源をどう読み解いて活かして良くしていくか。

**田中**：都市の中で、もう一歩考えれば良くなる所を変えたい。事業者の考え通りに作るんじゃないで、原点に戻ってとか、一歩進んだところを提案・実現したいです。経済活動の中で進む開発にも、デザ研でやったような、住民の立場や違う分野の考えを取り込んでいきたいです。

#### >最後に、読者の学生へメッセージをお願いします。

**池田**：色んな立場の人と議論してできたつながりって、今すごく大切。PJとかの貴重な機会をぜひ頑張って。

**田中**：自分が大事に思うことをずっと持ち続けて、信じてほしいなと思います。皆がそうできると都市はよくなっていくと思います。自身が楽しいと思うことを。

**富沢**：アトリエ事務所、悩んで本当に辛いときに、「何言ってんだ、もっと楽しめよ！」とボカッと怒られて。今考えると、もっと楽しむ努力をしるよ、だったんですね。真面目に考えて取り組むのが楽しむことだし、そうして初めて良いものができる。■



「20代のときに言われたのは、苦勞しろ」と

アルバイト募集！  
都市デザイン事務所でお働いてみませんか？ TITではアルバイトを募集中です。  
業務内容：集合住宅、駅前開発、公営住宅などの建築設計・都市デザイン  
条件待遇等：応相談  
希望者は、TITまたは  
都市デザイン研マガジン編集部へ！



独立という生き様から、都市デザインの専門性・職能に至るまで、多くを学ばせて頂きました。TITの皆様、有難うございました！（聞き手：M2 黒本 込 11 田中 M1 松田）

# 修士1年三文字昌也君、卒業設計の奮闘録

Sammonji (M1) Won the Lemon Award on Diploma Design

text\_KUROMOTO/M2



M1 三文字は、2015年度卒業設計「沁透街巷-台湾台南市における都市空間の漸進的更新設計-」にて、第39回学生設計優秀作品展「レモン賞」を受賞しました。例年都市工学科から1名が出席し、講評を経て11名がレモン賞として選出されます。都市工学科での受賞は、第37回の柴田純花さんに続き二度目です。

また三文字は、5月29日、設計対象地であり半年間現地調査等のため滞りした台南・成功大学にて講演会登壇を果たし、台南の魅力ある都市構造を、小籠包の「籠・皮・餡」と読み解き、更新手法のランゲージを提案する設計の内容を、約1時間にわたって語りました。



台南・成功大学にて  
演員の約150人を前に講演



卒業設計を終えて  
三文字昌也

おかげさまでこの度レモン賞を受賞することができました。黒瀬助教に再三言われていた賞でもあり、非常に嬉しいです。

都市工の人間にとってレモン賞は異種格闘技。審査員も参加者も建築畑という土俵で、戦う道具が違う。そんなわけでプレゼンでは敢えて「建築人」との違いを強調し、面白がられての受賞だったように感じます。それにしても今回の街区設計的な提案が受賞したというのは、建築の人が今改めて都市に寄ってきていることの証左に思えます。

そうすると、(徒らに建築と都市の対立を煽るつもりはないのですが)、建築が都市のことを考え始めた時に、都市の人間はどこで勝てるのでしょうか？ 実はレモンの審査委員に突っ込まれたのもそこで、山本理顕曰く「都市工だからって逃げちゃダメだね。建築が見事な設計で空間の問題を解決しているときに、都市工はどこに強みを主張できるんだろう？」。今後ゆっくり考えたいと思います。

そして現地の報告会にも持っていき、ようやく卒業設計から卒業できました。本当にありがとうございました。



レモン展で模型を展示

## 台湾取材旅行記



今回、講演会を聞きに、M2 黒本ほか1名で台湾を訪問しました。35度を超す暑さの中、日本と全く異なる街並みを歩いた感想を写真とともに報告します。



台中国家歌剧院(オペラハウス) 伊東豊雄が設計し、施工中のオペラハウスです。3Dの曲面からなる大胆なデザイン。  
台中の新興住宅地 すごい建ぺい率ですが、上部にも緑が多く、意匠もどこか西洋風で凝っています。



生活感溢れる台南の路地 三文字の設計した街区です。道路上に屋台やテーブルが並ぶバイクしか通れない路地に、び、お祭りがながら。地元客が中心の夜市です。

## 黒瀬武史先生のメッセージ

九州大学人間環境学研究院准教授

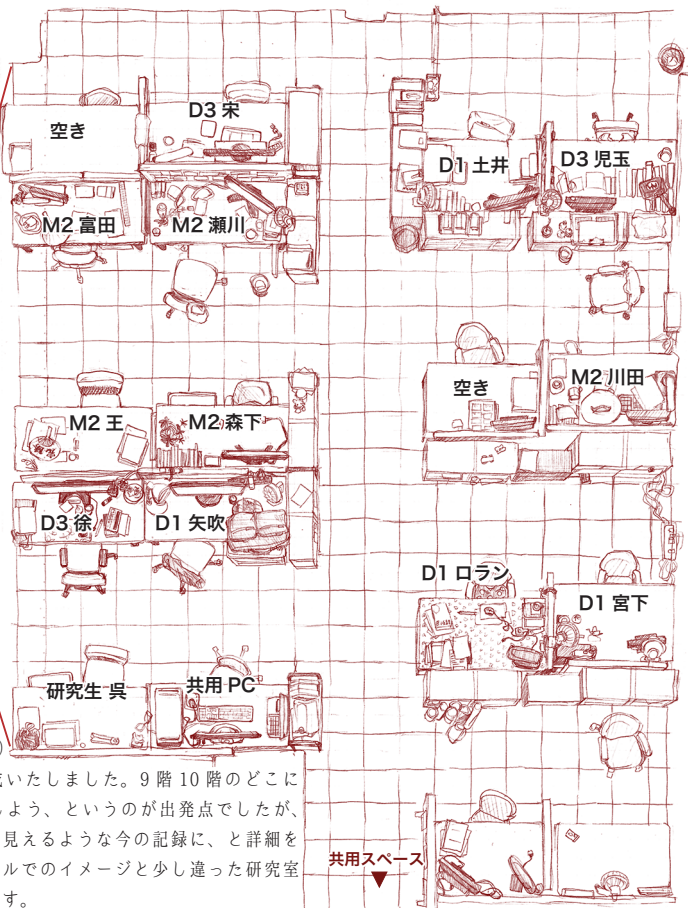
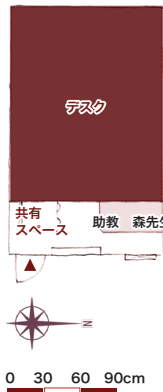


学部時代は、(おそらく一晩で)さりと設計課題をこなして、なかなか本気出してくれなかった三文字くん、最後にやってくれました。都市計画の枠にとらわれない、今後の活躍を期待します！おめでとう。

## コラム Column: 10F Plan

## デスク地図(10F版)

先月の9階デスク地図に引き続き、今月号では研究室10階のデスク地図を紹介します。ミーティングで使われる9階に比べると、本研究室の学生にとっても馴染みの薄い10階の実態を描きました。それぞれの机に現れる個性にもご注目ください。



作者者あとがき (M1 松田)  
2回に渡り、平面図を作成いたしました。9階10階のどこに誰がいるか分かるようにしよう、というのが出発点でしたが、どうせなら各々の個性まで見えるような今の記録に、と詳細を書き込みました。アイレベルでのイメージと少し違った研究室の顔になっていると思います。

## Urban Design Lab Magazine 2016年度企画 季刊特集号

## 6月特集号告知

## 北沢猛先生特集第3弾

**野原卓先生と、都市デザイン研究室のルーツに迫りました。**  
北沢先生の残したもののアーバンデザインセンターをめぐる議論 学生時代の貴重な図面 准教授としての現在の考え…  
+横濱まちあるき with 横国生

## Information

### 6月のウェブ記事

- 高島平 PJ 高島平ワークショップ!
- 佐原 PJ さわらぼサポーターズ会議
- 三国 PJ アーバンデザインセンター勉強会 @ 三国  
ぜひご覧ください! <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

### 7月の予定

- 7/2 神田 PJ 千代田まちサボ審査会
- 7/15-17 佐原 PJ 夏の大祭
- 7/27-28 ジュリー
- 7/29 修士論文審査
- 7/28-8/5 UEHAS ワークショップ

## \* 編集後記 黒本 剛史

編集長になって、過去のマガジンを1号から読み返してみました。偉大な先輩方が自分と同じ修士課程として、考え、実践を積み重ねた様子がありありと浮かび上がってきました。今の読者だけでなく、何年後の読者にも向けてマガジンを執筆できる重みを感じつつ、益々真摯にマガジンに向き合いたいと思います。